

六齋の 近・現代史

探訪



寄稿: 渡辺毅 東九条マダン事務局長

吉祥院天満宮（南区）では、4月25日に春季大祭が、8月25日に夏季大祭が行われ、両日共に夜8時から、境内の舞楽殿^{まいらくでん}で六齋念仏が奉納されます。笛、鉦、太鼓が奏でる囃子は、訥々^{とつとつ}として涼げで、見上げる観衆のざわめきの中に溶け込んだかと思うと、ふっと浮き立ってきます^{ひょうひょう}。飄々として、味わい深い芸能です。子ども六齋会に通う子どもたちにとっては、日頃の稽古の成果を発表する場にもなっていて、入れ替わり立ち替わり四ツ太鼓の前へ進み出て、ばちを振るう彼ら彼女らの眼差しは真剣そのものです。

六齋念仏は、空也上人が信仰を広めるため鉦や太鼓を叩き踊りながら念仏を唱えたのが起りこりとされ、その後、六齋日（仏典で示された悪鬼から身を守るための精進潔齋日）に行われるようになったため「六齋念仏」と呼ばれるようになり、これがさらに、室町時代中頃から娯楽的な要素を採り入れ、徐々に今日見られるような芸能色豊かな形へと変容したといえます。現在、京都市内の数ヶ所に伝承され、一括して国の重要無形民俗文化財に指定されていますが、吉祥院六齋念仏踊りはこのうちの一つです。一方、六齋奉納が行われる吉祥院天満宮は、934年（承平4年）、菅原道真生誕の地に建てられました。道真を祭神とする天満宮としては、全国に数ある中、最初に創建されたものだといえます。

吉祥院六齋念仏踊りは今、菅原組が受け継がれていますが、もともと吉祥院六齋は、東条・西条・北条・新田・石原・嶋・上久世という字に人々がそれぞれ六齋組の優美さを競っていましたが、南条（菅原組）だけが六齋念

仏の伝承・奉納から排除されていたのです。

それだけに自分たちも六齋の担い手になりたいという思いは、南条の人々にとって切実なものだったに違いありません。南条での六齋念仏は、南条の地主が、他の六齋組の地域から小作に来ていた人に対し、小作料を減免と引き換えに六齋を教えて欲しいと願い出たことから始まります。南条六齋が吉祥院の六齋組の一つに数えられるようになったのは、明治初年頃のことのようです。「天満宮の舞台に上がらせるな」という周囲からの嫌がらせや厳しい差別を受けながらも、南条の人々は決してひるまずたゆまず、六齋の技の上達へ精進を重ねていきます。

一方、日本の近・現代は、全国各地で民間に伝承されてきた芸能や祭事が衰微・消滅を余儀なくされる歳月でした。吉祥院も例に洩れず、地域コミュニティの弱体化に伴い、六齋組が一つ、また一つと活動を停止していきます。けれどもそんな中、菅原組は残りました。周囲から排除されながらも心を合わせて一途に六齋に取り組んできた彼らだからこそ、団結の力でコミュニティの弱体化を迫る時代の波に抗い、これを乗り越えることができたのでしょう。戦後、幾年か経ち、気が付けば、吉祥院六齋念仏を受け継ぐのは、菅原組だけになっていました。かつて排除された人々が、吉祥院六齋保存会を結成し、貴重な地域芸能である吉祥院六齋念仏を守っています。

現在、「子ども六齋会」「研究会」が作られ、保存会の指導のもと、六齋念仏を次世代へ伝える取り組みも続けてられています。

京都市府知事許可第34654号

管工事業・ボイラー・配管・溶接・施工据付工事一式

井上工業所

INOUE KOUGYOUSYO

代表取締役 **井上 孝司**

〒601-8395

京都市南区吉祥院中河原西屋敷町21-1

電話・FAX (075)311-7430

HORIBA
Explore the future



カエル合唱団、解散の危機！



あの名曲が聴けなくなる？

地球環境の悪化により、カエルが絶滅危惧種になっていることをご存知ですか？

あの名曲が、本物のカエルの声で聴けなくなる前に。

HORIBAは分析のスペシャリストとして、地球環境の保全に力を注いでいます。

株式会社 堀場製作所 〒601-8510 京都市南区吉祥院宮の森町2 TEL: (075)-313-8121(代) e-mail: info@horiba.co.jp ▶ HORIBA ONLINE: <http://www.horiba.co.jp>

獅子の如く創刊するにあたり、ご賛同・ご協力をいただいている個人、団体、企業の皆さまをご紹介させていただき敬意を表します。心より感謝申し上げます。